

## おもな学校感染症一覧

### ○第1種の感染症 治癒するまで出席停止

エボラ出血熱、クリミアコンゴ出血熱、ペスト、マールブルグ熱、ラッサ熱、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、急性灰白髄炎(ポリオ)、中東呼吸器症候群(MERS)、鳥インフルエンザ(H5N1)など

### ○第2種の感染症 診断が着いたら速やかに学校に連絡する。医師の指示に従い出席停止期間を守る。

インフルエンザ	発症後5日を経過し、かつ、解熱後2日経過するまで
百日咳	特有の咳が消失するまで、または5日間の適切な抗菌剤による治療が終了するまで
麻疹(はしか)	解熱後3日を経過するまで
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺が腫れて5日を経過し、かつ、全身状態が良好となるまで
風疹	発疹が消失するまで
水痘(水ぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで
咽頭結膜熱(プール)	主症状が消失し、2日経過するまで
結核	医師が感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	医師が感染の恐れがないと認めるまで

### ○第3種の感染症

コレラ	医師が感染の恐れがないと認めるまで
細菌性赤痢	医師が感染の恐れがないと認めるまで
腸管出血性大腸菌感染症	医師が感染の恐れがないと認めるまで
腸チフス	医師が感染の恐れがないと認めるまで
パラチフス	医師が感染の恐れがないと認めるまで
流行性角結膜炎	医師が感染の恐れがないと認めるまで
急性出血性結膜炎	医師が感染の恐れがないと認めるまで

### ○第3種(その他)感染症)

学校長の判断で、状況により出席停止となる場合もある。

溶連菌感染症	抗生剤治療開始後24時間を経て、全身状態が良ければ登校可能
ウイルス性肝炎	A型・E型は肝機能正常化後登校可能、B型・C型は出席停止不要
手足口病	急性期は出席停止、治癒期は全身状態が良ければ登校可能
伝染性紅斑	発疹のみで全身状態が良ければ登校可能
ヘルパンギーナ	急性期は出席停止、治癒期は全身状態が良ければ登校可能
マイコプラズマ感染症	急性期は出席停止、治癒期は全身状態が良ければ登校可能
感染性胃腸炎(流行性嘔吐下痢症)	下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能
アタマジラミ	出席可能(タオル、櫛、ブラシの共用は避ける)
伝染性軟属腫(水いぼ)	出席可能(多発発疹者はプールでビート板の共用は避ける)
伝染性膿痂疹(とびひ)	出席可能(プール、入浴は避ける)